

令和元年度事業計画

基本的な考え方

当財団は、昨年12月に実施された熊本県立劇場の指定管理候補者選考委員会において、今後の事業計画の審査を経て、令和元年度から令和5年度までの指定管理候補者として選定されました。

次期事業計画では、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を受けて策定された熊本県立劇場運営方針および今般の熊本県立劇場条例の改正の趣旨を踏まえ、以下4点を基本方針として県民の文化振興に取り組むこととしています。

1 共生の場としての劇場

質の高い音楽や演劇等の実演芸術を提供する「創る劇場」「観る劇場」としての機能をさらに高めるとともに、文化芸術の力で震災後の心の復興に寄与し、これまで以上に県民に寄り添う「共生の広場」を目指します。

2 安全で心安らぐ劇場

熊本地震を受けて、さらに安全で心安らぐ、快適な空間づくりを行い、県民が集う「広場」としての劇場を目指します。

3 公の施設としての使命を果たす劇場

施設の管理運営にあたっては、館の設置目的および当財団の目的に照らし公平公正のもとに質の高い県民サービスを行います。また、県内公立文化ホールの中核施設として、県内の実演芸術を担う人材の育成および確保と、実演芸術振興のための関係機関との連携の強化を目指します。

4 新たな役割に応えるための安定的な運営体制の確保

施設の管理運営および文化事業の展開にあたっては、効率的、効果的な実施に努め、最大限の事業効果の発現を目指します。また、多様な財源の確保と県民参加の仕組みづくりにより、安定的な運営体制を確保します。

令和元年度は、次期指定管理者期間の初年度として次期事業計画に掲げた業務を着実に推進するとともに、県内で実施される国際スポーツ大会や熊本文化プログラム事業の機会をとらえて県と一体となって県立劇場からの文化の発信を行っていきます。

I 施設管理事業について

施設の管理運営にあたっては、震災によって毀損された環境やインフラの復旧工事や改修工事が一段落し、平時へと向かう過渡期であることから、より安心して利用でき、親しまれる施設となれるよう、引き続き業務を効率的に執行しながら、熊本県の文化の拠点施設としてふさわしい施設管理を行います。

1 施設の維持管理、安全対策

県立劇場管理運営業務仕様書に示された保守管理業務を確実に実施します。また、多額の経費を必要とする中・長期的な改修計画については、県と密接な協議を行い、緊急性の高いものから施工し、施設・設備の安全確保に努めます。

また、危機管理においては、催事本番中の大規模災害に備え、催事本番直前に劇場職員と主催者などで協議・確認を行うことを継続することで、初動対応の迅速化を図り、出演者や鑑賞者の動揺を防ぐアナウンス対応や安全かつ迅速な避難誘導に努めるとともに、日頃からの訓練により、職員の危機管理能力の向上を図ります。

2 利用者サービスの拡充

現在の貸館業務は、利用者が申し込みから本番までの催事内容や関連する手続き等をスムーズに進められるよう、催事ごとに専属担当者（コンシェルジュ）を配置する体制を基本としています。

施設の利用者ニーズを把握・分析し、利用者の満足度を高める各種サービスを充実させ、利便性を高めることにより、新規利用者やリピーターの確保・増加を図ります。令和元年度については、以下の3つの取組みを強化します。

(1) 新規利用者の獲得

新規利用者の開拓として企業による研修会や講演会の利用促進を図るため、企業への直接訪問や電話による誘致活動を行い新規利用者の獲得につなげていきます。

また、次世代の文化の担い手である若い世代は中長期的展望からみても重要であることから、利用増に向けてホームページ等で、お稽古ごとやサークル団体の活動内容を広く一般に紹介するなど、将来のホール利用に繋がられるよう情報発信に努めます。

(2) リピーターの確保

各種手続きから公演本番に至るまで、コンシェルジュによるきめ細やかなサービスを提供し、コミュニケーションを重ねることで、お互いの顔が見える関係を構築し、定期的な利用頻度の増加を図ります。

(3) 利用者の利便性向上

利用者により満足していただけるよう、現在行っている利用者への各種サービスを継続、洗

練させていただきます。特に令和元年度は、当劇場舞台職員による映像サービスの充実を図ることで、より利用者ニーズに合わせた舞台づくりが提供できるよう努めます。

3 ホールの利用および使用料収納目標

ホール利用率（コンサートホール、演劇ホール）と来館者数については、リピーターの増加や新規利用者開拓等の誘致活動により、次の数値を目標とします。

項目		目標
コンサートホール利用率 (※1)		73%
演劇ホール利用率 (※1)		81%
年間来館者数 (※2)		540,000 人
使用料収納額 (県予算見込)	設備使用料	94,627,000 円
	駐車場使用料	77,244,000 円

(※1) 第4期指定管理事業計画より

(※2) 令和元年度以降の来館者数については、「共生の劇場」を目指す観点から、個別の公演等の入場者以外の来館者も含めるものとします。

4 広報活動の強化

広報活動は、県民と県立劇場をつなぐ重要な活動であり、「共生の劇場」を目指すためにも劇場からの情報発信、県民との双方向のコミュニケーションはこれまで以上に重要な活動と位置付けています。

令和元年度においては、広報誌「ほわいえ」、「ホームページ」のリニューアルや既存の広報媒体の効果検証による見直しを行い、より効率的、効果的な広報体制の構築を図ります。

また、チケットの先行予約会員制度の創設を予定し、会員制度の定着によりチケット販売促進のみならず、将来的には会員との交流の場を設けるなど、県立劇場への理解と協力を全体的に広げていきます。

県民の文化の振興に必要な業務

1 事業実施方針

熊本県立劇場の社会的役割は、熊本県の芸術文化の創造に積極的に関与し、県民が文化・芸術的な価値を享受できる環境を整備し、質の高い音楽や舞踊、演劇、伝統芸能、演芸などの実演芸術を提供するとともに、県民相互の交流やコミュニケーションに資することにあると考えます。

一方で、熊本県は平成 28 年に 2 度にわたる未曾有の大震災を経験し、熊本県立劇場が県民の「こころの復興」にフォーカスし、劇場ならではの独自の社会的なミッションを果たす必要に迫られています。

実演芸術の創造性と普及啓発に資するとともに、子どもや高齢者、過疎地域の住民や社会的弱者をも包摂する「共生の劇場」へと脱皮し、地域コミュニティの新たな創造と再生に貢献する役割を果たしていかなければなりません。

これらを踏まえ文化事業につきましては、これからのミッションとして次の 4 つの事項を掲げます。

ミッション 1 こころの復興、共生の場としての劇場

震災からのこころの復興にこそ芸術や文化が必要だという視点のもと、これまで以上に県民と寄り添う「共生の劇場」を目指します。

ミッション 2 県内文化ホールの中核施設としての劇場

過疎や高齢地域とのネットワークを強め、熊本市民会館をはじめ県内公立文化ホールの中核館として、協働による公演実施や普及啓発、職員研修、地域伝承芸能の継承や掘り起こし等、熊本文化の全体的な向上に貢献します。

ミッション 3 未来を担う世代を育成する劇場

熊本の未来を担う若い世代の実演家や専門性の高いスタッフを育成するため、関連機関と連携し、後進の育成に貢献できる場を提供します。

ミッション 4 県民の文化芸術活動の殿堂としての劇場

芸術文化の創造に積極的に関与し、県民が文化・芸術的な価値を享受できる環境を整備します。また、2 つの専門ホールを持つ劇場として、その機能を活かすことができる良質な音楽、舞踊、演劇、伝統芸能などの実演芸術を提供し、県民参加の舞台芸術公演を制作します。

以上 4 つのミッションに沿って、令和元年度文化事業を企画。社会的ニーズと業務バランスを考慮し実施します。

令和元年度からの重点事業

県内の実演芸術を担う人材育成については、これまで公演の制作者、舞台技術者、実演家等の育成を図るため、年度ごと、事業ごとに企画・実施してきました。

しかしながら、「実演芸術を担う人材」は対象となる職能の幅が広いという点、育成には長い時間を要することから、県内文化ホールの現状を踏まえて育成対象を絞り込むとともに、中長期的視野に立った県内の「劇場人育成プログラム」を立ち上げ、令和元年度からの重点事業として実施していきます。

具体的には、県内公立文化ホール職員の研修を強化し、知識や技能向上を図るとともに、公立文化ホールを支えるボランティア・スタッフ育成につながるセミナーを充実させます。

また、県全体の文化拠点としての機能充実を図るため、全国公立文化施設協会及び同協会九州支部、並びに熊本県公立文化施設協議会加盟館等との連携を強化し、職員派遣や助言をとおして県内の実演芸術振興を図ります。

2 個別事業コンセプト

令和元年度は、新たに示された県の方針に則り次の5つの柱をもとに取り組みます。

A 創造拠点として取り組む事業

- ①実演芸術に係る人材の育成や確保を行う事業
- ②地域の公立文化ホールや文化団体を支援する事業
- ③伝統芸能の継承と発展を支援する事業

B 普及拠点として取り組む事業

- ①実演芸術を鑑賞する機会を県民に提供する事業
- ②芸術文化に触れる機会を県民に提供する事業

また、熊本市民会館文化企画事業の企画運営においては、以下の事業体系に基づき立案、実施します。

- ①芸術文化鑑賞機会拡大事業
- ②地域文化創造事業
- ③街なかの賑わい創出事業

文化事業の入場者及び参加者数は、令和元年度においては41,250人を目標とします。

(1) 県受託事業

A 芸術文化の創造拠点として取組む事業

①実演芸術に係る人材の育成や確保を行う事業

県の文化拠点施設として、劇場および劇場を取り巻く専門的人材(制作者、技術者)の育成のほか、地域住民や青少年、児童等を対象に実演家の技術向上を目的とした事業を行います。

期日	会場	事業名	目標入場者(人)
通年	中会議室他	劇場人育成プログラム 〈新規〉	200
舞台芸術活動を支える制作者の養成を目的に、県内外から講師を招き実施する「舞台芸術制作セミナー」のほか、県内公立文化ホール職員を対象に、スキルアップや情報共有など職員の専門性の向上と人材交流を目的としたホール職員研修等を通して、全県的な人材育成を図る。文化庁助成申請中。			
8月9日(金)	演劇ホール	行くぜ!劇場探検隊2019	60
夏休みに子どもと保護者対象の劇場バックステージツアー。普段見る機会がない舞台裏(奈落・鳥屋・オーケストラピット等)を楽しみながら探検する。文化庁助成申請中。			
9月1日(日)	演劇ホール	第61回熊本県芸術文化祭オープニングステージ 大地のうた	780
総合演出に尺八演奏家の藤原道山を迎え、熊本や日本の民謡を様々な切り口で紹介。「民謡」をテーマにプロの演奏家と県民が共演し、民謡に対する理解を深めるきっかけとする。文化庁助成申請中。			
通年	—	第62回熊本県芸術文化祭オープニングステージ 準備事業	50
令和2年度開催予定の県芸術文化祭オープニングステージにかかる準備事業。			
9月11日(水)	演劇ホール	お気に召すまま 〈新規〉	1,100
人気演出家の熊林弘高が初めて手がけるシェイクスピア作品。キャストは満島ひかり、坂口健太郎、中嶋朋子など人気俳優陣。東京芸術劇場制作、新潟りゅーとびあ等とのネットワーク強化事業。文化庁助成申請中。			
令和2年 2月29日(土) ~3月1日(日)	音楽リハサル室	東京藝術大学音楽学部 早期教育プロジェクト	30
東京藝術大学と熊本県立劇場とが協働して取り組む逸材発掘プロジェクト(教育機関等との連携)。令和元年度はピアノで実施。			

②地域の公立文化ホールや文化団体を支援する事業

本県における中核的な文化拠点施設として、県内各地域の公立文化ホールや文化団体の活動を支援します。

期日	会場	事業名	目標入場者(人)
通年	熊本県立劇場 熊本県内	アートキャラバンくまもと	1,280
熊本地震後、被災者や子どもたちの心の復興をアートで支援する心の復興支援事業を契機にスタート。日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるミニコンサートほか、舞台芸術に触れる機会の少ない地域住民向けのお出かけ公演やワークショップ、劇場招待公演等を実施する。			
4月14日(日)	コンサートホール	アートキャラバンくまもと くまモン音楽祭(新規)	1,700
熊本地震から3年目にあたる日に、未来を担う子どもたちが主役の復興音楽祭を、世界的指揮者の佐渡裕氏とスーパーキッズ・オーケストラを招いて実施。また、県内高等学校の吹奏楽部員で特別編成した選抜バンド向けのクリニックもあわせて行う。文化庁助成申請中。			

期日	会場	出演団体(ジャンル)	目標入場者(人)
市町村ネットワーク事業 県内外の文化団体やプロの芸術団体による公演を、県内市町村や公立文化ホールと連携し、経費や役割を分担して実施、県内各地域における舞台芸術の普及を図る。文化庁助成申請中。			
1	4月28日(日)	八千代座 (山鹿市)	野村万禄(狂言)
2	5月19日(日)	泗水文化ホール (菊池市)	三遊亭好楽(落語)
3	6月23日(日)	荒尾総合文化センター (荒尾市)	野村万禄(狂言)
4	7月18日(木)	天草市民センター (天草市)	藤原道山×SINSKE (尺八・マリンバ)
5	9月21日(土)	菊陽町図書館ホール (菊陽町)	藤原道山×SINSKE (尺八・マリンバ)
6	10月14日(月・祝)	美里町文化センター ひびき(美里町)	熊本交響楽団 (管弦楽)
7	11月2日(土)	山鹿市民交流センター (山鹿市)	栗コーダー (リコーダー)
8	11月6日(水)	水俣市民文化会館 (水俣市)	独楽 (和太鼓)
9	令和2年 1月26日(日)	牛深総合センター (天草市牛深町)	あべや (津軽三味線・民謡)
10	令和2年 3月4日(水)	ながす未来館 (長洲町)	三遊亭好楽 (落語)

期日	会場	事業名	目標入場者(人)
通年	熊本県内	芸術家派遣コーディネート事業 〈新規〉	200
県内外の公立文化ホールやその他の文化・教育・医療等の関係機関と連携して県内各地域における舞台芸術を普及する事業。			
10月25日(金)	コンサートホール	京&三勇士デュオ・リサイタル(名義共催)	1,500
熊本県出身の有島京と、金子三勇士によるピアノ・リサイタル。I.M企画主催。			
11月2日(土)	コンサートホール	熊本県新人演奏会(名義共催)	800
音楽を志して活動している熊本県出身もしくは在住の才能ある若手演奏家を紹介し、その活動の伸展の契機とする演奏会。熊本県文化協会ほかの主催。			
12月22日(日)	コンサートホール	熊本県民第九の会 ベートーヴェン「第九」(名義共催)	1,100
熊本県立劇場開館以来、広く県民から公募して続いている熊本県民第九の会によるベートーヴェン「第九」の演奏会を共催で実施する。熊本県民第九の会ほかの主催。			
通年	コンサートホール 演劇ホール	文化活動支援事業	4,000
熊本県内で活動する文化団体に、熊本県立劇場での発表の機会を提供することにより、文化団体の育成・発展を図るとともに、県民への舞台鑑賞の機会を提供するための支援を行う。 5団体採択。(下記一覧参照)			

[文化活動支援事業一覧(5団体)]

期日	会場	事業名	主催者
8月12日(月・祝)	コンサートホール	クラウディオ・モンテベルディ 「聖母マリアの夕べの祈り」	グループ「葦」
11月3日(日)	コンサートホール	第21回熊本県一般吹奏楽団 合同音楽祭 in 熊本市	熊本県一般吹奏楽団 協会
11月17日(日)	演劇ホール	くまもと2019 第32回箏曲の祭典	熊本箏演奏者協会
12月1日(日)	演劇ホール	熊本バレエ劇場2019 くるみ割り人形	熊本バレエ劇場
令和2年 2月23日(日)	コンサートホール	第30回碧落アンサンブル定期 演奏会～創立40周年記念～	碧落アンサンブル

期日	会場	事業名	目標入場者(人)
通年	えがお健康 スタジアム他	熊本文化プログラム	4,300
令和元年に開催される国際スポーツ大会及び令和2年東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げようとスタート。国際スポーツ大会会場等で伝承芸能を披露するほか、県内各地域の文化活動を支援する「オール熊本文化プログラム公募事業」など、熊本ならではの文化の魅力を国内外に発信する。			
8月15日(木)	演劇ホール	熊本文化プログラム 県劇盆踊り	800
劇場が開かれた場(広場)であり、地域の方たちが気軽に立ち寄る集いの場にしようと企画。世代を超え、地域社会のコミュニティの形成に寄与する。文化庁助成申請中。			
9月28日(土)	コンサートホール	熊本文化プログラム 九州交響楽団 熊本公演 〈新規〉	1,500
ラグビーワールドカップ日本大会を音楽からアプローチし盛り上げるため、大分県 iichiko 総合文化センターと九州唯一のプロオーケストラである九州交響楽団との共同制作事業として取り組む。文化庁助成申請中。			

③伝統芸能の継承と発展を支援する事業

世代を超え、地域社会のコミュニティの形成に大きな役割を果たしてきた伝統芸能の継承と発展を支援します。

期日	会場	事業名	目標入場者(人)
通年	演劇リハーサル室他	伝承芸能普及事業 〈新規〉	100
能楽、邦楽、日本舞踊などの伝統芸能や清和文楽、山鹿灯籠、牛深ハイヤなど熊本の伝承芸能を継承し発展していくための事業。令和元年度は淡路人形座(兵庫県南あわじ市)の協力を得て、清和文楽人形芝居保存会へのワークショップにより技能向上を図る。文化庁助成申請中。			
通年	県内各地	伝承芸能発信事業	50
県内における過疎地域の伝統文化・伝承芸能活動に着目し、広く紹介することで文化による地域づくりを支援する。			
通年		創造拠点新規企画事業	—
次年度以降の創造拠点事業の企画・調査を行う。			

B 芸術文化の普及拠点として取組む事業

①実演芸術を鑑賞する機会を県民に提供する事業

響きの豊かなコンサートホールと、さまざまな舞台機構を持つ演劇ホールという、県立劇場の2つの専門ホールの特性を活かし、音楽、演劇、舞踊、伝統芸能など、魅力的で質の高い舞台芸術公演を実施します。

期日	会場	事業名	目標入場者(人)
6月6日(木)	コンサートホール	ウィーン少年合唱団 〈新規〉	1,750
「天使の歌声」として知られ、世界の数ある少年(少女)合唱団の中でも抜群の人気と実力を誇る合唱団による公演。鶴屋百貨店との共催事業。			
8月20,21日	演劇ホール	めにみえない みみにしたい	450
次代の演劇界を担う人材として注目を集める演劇作家の藤田貴大が初めて手がける、子ども(4歳)から大人まで楽しめる演劇公演。舞台上特設ステージで3回実施。地域創造及び文化庁助成申請中。			
10月29日(火)	コンサートホール	チェコフィルハーモニー管弦楽団 〈新規〉	1,600
プラハを本拠地とするオーケストラによる演奏会。指揮はセミヨン・ビシュコフ。文化庁助成申請中。			
9月21日(土)	演劇ホール	第二十二回熊本「万作・萬斎の会」 (名義共催)	1,000
人間国宝の野村万作と、狂言師でありながら現代劇や映画に出演・演出を手がけるなど幅広く活躍する野村万作・萬斎親子による狂言公演。 主催：熊本万作・萬斎の会			
12月17,18日	演劇ホール	劇団四季 ミュージカル「エビータ」 (名義共催)	1,600
昭和57年の初演から、劇団四季を代表する作品として根強い人気を誇る同作品の熊本初公演。 主催：劇団四季			

②芸術文化に触れる機会を県民に提供する事業

県立劇場が主体となって、実演芸術を普及啓発するための事業を行います。

期日	会場	事業名	目標入場者(人)
通年	熊本市現代美術館ほか	オハイエくまもと事業	2,000
知的障がいのある人たちを中心とした「オハイエ音楽隊」を指導する講師を派遣するほか、「オハイエ10周年演奏会」、「とっておきの音楽祭」等への協力を行う。			
10月5日(土) 11月9日(土)	演劇ホール他	シアターアクセシビリティ研修〈新規〉 「劇場って楽しい!」(映画編・コンサート編)	450
障がい者が劇場で公演を鑑賞できる環境の整備を図るための研修会を実施。文化庁助成申請中。			
6～9月、 10月20日(日)	市内コミュニティセンター他	地域をむすぶアートプロジェクト ～高齢者編～	50
ワークショップ「認知症声掛け訓練」体験講座のほか、演劇的手法を用いて老いや認知症に対する理解を深める機会とする。文化庁助成申請中。			
通年	熊本県内	文化芸術による子供の育成事業	500
平成22年度から文科省の委託事業として実施。児童・生徒に対し芸術家による表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等の実技指導を行うことにより、コミュニケーション能力の育成を図る。文科省委託事業予定。			
通年	あさぎり町他	演奏家派遣アウトリーチ事業	900
地域においてクラシック音楽を身近なものとするため、公立文化ホールや学校等にアーティストを派遣し、開催市町村と共催で演奏会や出前授業等を実施。ホールまで直接足を運ぶ機会の少ない方々のもとへ演奏家が出向き、鑑賞機会を作ることで鑑賞者の拡大につなげる。文化庁助成申請中。			
1	10月	あさぎり町	熊本県立劇場協力アーティスト (緒方愛子、亀子政孝、春日香南、西口新一郎、村田貴洋、山崎明、山本亜矢子)
2	令和2年 1月	荒尾市	
3	同 2月	益城町	
通年	普及拠点新規企画事業		—
来年度以降の普及拠点事業の企画・調査を行う。			

(2) 熊本市民会館受託事業

期日	会場	事業名	目標入場者(人)
9～10月	花畑広場	熊本文化プログラム ファンゾーンステージでの公演	300
ラグビーワールドカップの開催時期に合わせて、辛島町花畑広場特設ステージで、熊本ならではのステージを披露。街なかの賑わい創出とする。			
11月24日(日)	演劇ホール	邦楽新鋭展 〈新規〉	700
第1回～第25回「くまもと全国邦楽コンクール」最優秀賞受賞者が、箏・尺八・三味線・琵琶により、邦楽古典曲や現代曲を演奏する。			
令和2年 2月4～6日	市民会館	劇団四季「はだかの王様」	6,000
市民会館がこれまで継続してきた小学生の無料招待公演を引き継いで実施する。4～5公演を予定。 制作・企画：劇団四季			
令和2年 3月10日(火)	市民会館	KUMAMOTO JAZZ	1,300
平成29年度からスタートしたジャズ企画。出演は小曾根真&No Name Horsesを予定。			
通年	熊本市内	文化芸術による子供の育成事業	50
児童・生徒に対し芸術家による表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等の実技指導を行うことにより、コミュニケーション能力の育成を図る。実施にあたっては、熊本市教育委員会を通して募集。文科省委託事業予定。			
通年	熊本市内	アートキャラバンくまもと	50
熊本地震後、被災者や子どもたちの心の復興をアートで支援することを目的に、熊本市内において日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるミニコンサートやワークショップ等を実施する。			
通年		市民会館新規企画事業	—
次年度以降の市民会館事業の企画・調査を行う。			